青山忠正先生　略歴と研究業績

【略歴】

1950年６月　東京都品川区にて出生

（学歴）

1976年３月　東北大学 文学部 卒業

1978年３月　東北大学 大学院 文学研究科 博士前期課程 修了

1983年３月　東北大学 大学院 文学研究科 博士後期課程 単位修得

2000年10月　東北大学より学位授与 博士（文学）

（職歴）

1983年４月　東北大学 文学部 助手（1986年３月まで）

1986年４月　大阪商業大学 商経学部 専任講師（1990年３月まで）

1990年４月　大阪商業大学 商経学部 助教授（1996年３月まで）

1996年４月　佛教大学 総合研究所 助教授（1999年３月まで）

1999年４月　佛教大学 総合研究所 教授（2005年３月まで）

2005年４月　佛教大学 文学部 教授（2010年３月まで）

2007年４月　佛教大学 大学院 文学研究科 日本史学専攻 専攻主任（2010年３月まで）

2010年４月　佛教大学 歴史学部 歴史学科 教授

2017年４月　佛教大学 歴史学部 歴史学科 学科長（2020年３月まで）

（受賞）

2006年10月　第４回 佛教大学 学術賞

【著作】

（単著）

- 幕末維新／奔流の時代　文英堂、1996年９月
- 日本史学特殊研究Ⅳ　佛教大学通信教育学部テキスト、1999年２月
- 明治維新と国家形成　吉川弘文館、2000年２月
- 明治維新の言語と史料　清文堂出版、2006年３月
- 高杉晋作と奇兵隊（幕末維新の個性　７）　吉川弘文館、2007年１月

- 明治維新史という冒険　佛教大学通信教育部、2008年３月
- 幕末維新―すっきり読める奔流の時代―　新人物往来社、2010年７月
- 明治維新（日本近世の歴史　６）　吉川弘文館、2012年11月
- 明治維新を読みなおす―同時代の視点から―　清文堂出版、2017年２月

（共編著）

- 東大阪商工会議所五十年史編纂委員会 編『東大阪商工会議所五十年史』東大阪商工会議所、1988年５月
- 新修神戸市史編集委員会 編『新修神戸市史 歴史編 Ⅲ 近世』神戸市、1992年４月
- 田中彰 監修、田村哲夫 校訂『定本奇兵隊日記』全５巻、マツノ書店、1998年３月
- 山口県 編『山口県史 史料編 幕末維新 ６』山口県、2001年６月
- 佛教大学総合研究所 ほか 編『明治の元勲書簡展目録』佛教大学総合研究所、2001年11月
- 山口県 編『山口県史 史料編 幕末維新 １』山口県、2002年６月
- 佛教大学近代書簡研究会 編『元勲・近代諸家書簡集成―宮津市立前尾記念文庫所蔵―』宮津市、2004年２月
- 日吉町郷土資料館 編『湯浅五郎兵衛と幕末維新―平成16年度企画展―』日吉町郷土資料館、2005年３月
- 明治維新史学会 編『明治維新と史料学』（明治維新史研究 ９）、吉川弘文館、2010年２月
- 明治維新史学会 編『幕末政治と社会変動』（講座明治維新 ２）、有志舎、2011年５月

（分担執筆）

- 日本史広辞典編集委員会 編『日本史広辞典』山川出版社、1997年10月
- 朝尾直弘 ほか 編著『日本歴史大事典』全４巻、小学館、2000年７月-2001年７月
- 『幕末大全 下巻』（維新回天と戊辰戦争）（歴史群像シリーズ74）、学習研究社、2004年５月

【論文】

- 慶応元年将軍進発令と政局　『国史談話会雑誌』23、1982年２月
- 長州藩元治の内乱をめぐる政治状況　『歴史』58、1982年６月
- 長州藩元治の内乱における諸隊の動向　『日本史研究』246、1983年２月
- 松下村塾を指導した人びと
  奈良本辰也 編『吉田松陰のすべて』新人物往来社、1984年３月
- 慶応期長州藩諸隊の組織について―藩体制との関連で―　『歴史』63、1984年11月
- 近現代史部会共同研究報告 慶応期の政治過程と討幕の意義〔含 討論〕
  『日本史研究』283、1986年３月

• 薩長盟約の成立とその背景　『歴史学研究』557、1986年８月
• 幕末維新期の貿易政策―兵庫商社と商法司・通商司―
『大阪商業大学論集』77、1986年12月
• 布施商工会議所の設立―1930年代の小都市と商工業者―
『大阪商業大学論集』82・83、1988年10月
• 大阪開港―維新政府の成立と外交・貿易問題―　『商業史研究所紀要』１、1990年10月
• 開国と攘夷―外圧下の政治対立と国家に関する覚書―
渡辺信夫 編『近世日本の民衆文化と政治』河出書房新社、1992年４月
• 王政復古と対外関係―関連史料についての基礎的考察―
『商業史研究所紀要』２、1992年８月
• 館城址　北海道・東北史研究会 編『海峡をつなぐ日本史』三省堂、1993年７月
• 近世史部会―木村直也「幕末における日朝関係の転回」、熊沢徹「幕末維新期の軍事と徴兵」―（1993年度歴史学研究会大会報告批判）　『歴史学研究』653、1993年12月
• 家茂の参内と勅語―慶応元年夏の場景―　『人文学報』73、1994年１月
• 民衆が明治維新に期待したもの
吉村武彦 ほか 編著『日本の歴史を解く100話―読めば歴史観が変わる―』
文英堂、1994年９月
• 木戸孝允・大久保利通
吉村武彦 ほか 編著『日本の歴史を解く100人―再評価される歴史群像―』
文英堂、1995年９月
•「奇兵隊日記」原本の伝存状況　『山口県史研究』４、1996年３月
• 特集資料 長州藩諸隊総覧　『歴史読本』670、1996年８月（笹部昌利と共著）
• 長州の密使　『佛教大学報』46、1996年９月
• 岩国と薩摩―水面下の薩長交渉―　『佛教大学総合研究所報』11、1996年11月
• 第30回大会報告を聞いて（歴史科学協議会第30回大会報告特集／世界史認識の再検討　６）
『歴史評論』563、1997年３月
• 伴林光平と「南山踏雲録」　『佛教大学総合研究所報』13、1997年12月
• 長州と薩摩―慶応三年後半の政局―　『佛教大学総合研究所紀要』５、1998年３月
• 幕末から近代というパラダイムを捉え直す
『幕末学のみかた。』（Aera mook 36）、朝日新聞社、1998年４月
• 薩長武力挙兵の勇断　『季刊アーガマ』145、1998年５月
• 薩摩藩はなぜ長州藩を助けたのか
歴史教育者協議会 編『100問100答・日本の歴史　４　近世』河出書房新社、1998年８月
• 江華島の砲台　『佛教大学総合研究所報』15、1998年12月

• 和親・通商・攘夷―十九世紀東アジアの視点から―
『佛教大学総合研究所紀要』６、1999年３月
• 明治維新の史学史　『歴史評論』589、1999年５月
• 戊辰戦争と諸隊
『幕末維新三百藩諸隊始末―三百藩幕末維新の戦歴―全国諸隊三百十一隊総覧―』
（別冊歴史読本 36）、新人物往来社、1999年12月
• 近代への道―十九世紀の東アジアと西ヨーロッパ―
原田敬一 編『幕末・維新を考える』（佛教大学鷹陵文化叢書 ２）、
佛教大学通信教育部、2000年３月
• 史跡と人物を訪ねて　同上
•「征韓」―言語と認識―
『佛教大学総合研究所紀要』別冊「近代日朝における《朝鮮観》と《日本観》」2000年３月
• 土佐山内家重臣・寺村左膳―薩土盟約と政権奉還建白―
佐々木克 編『それぞれの明治維新―変革期の生き方―』
（京都大学人文科学研究所共同研究報告）、吉川弘文館、2000年８月
• 文体と言語―坂本龍馬書簡を素材に―　『佛教大学総合研究所紀要』８、2001年３月
• 井伊直弼と通商条約調印
佐々木克、彦根藩資料調査研究委員会 編『幕末維新の彦根藩』（彦根城博物館叢書 １）、
彦根市教育委員会、2001年３月
• 歴史の言葉について考えてみよう　京都新聞朝刊「提言」欄、2001年５月15日
• 前尾記念文庫所蔵の近代政治家書簡群について
『佛教大学総合研究所紀要』９、2002年３月
• 勤勉な父、厳格な叔父が育んだ「やさしい教え魔」
『歴史街道』2002年７月号、2002年７月
• 新政府の成立と外交問題―大阪開港を中心に―
奥田晴樹 編『日本近代史概説』弘文堂、2003年12月
• 近代書簡の様式について　『佛教大学総合研究所所報』25、2004年１月
• 部会ニュース〔日本史研究会〕近世史・近現代史合同部会 江戸時代に『藩』はあったか〔含 討論〕　『日本史研究』500、2004年４月
•「公武一和」システムと国事審議―文久三年の将軍上洛をめぐって―
『佛教大学総合研究所紀要』別冊「近代国家と民衆統合の研究―祭祀・儀礼・文化―」
2004年８月

• 草莽の明治維新―志士と攘夷論―
日吉町郷土資料館 編『湯浅五郎兵衛と幕末維新―平成16年度企画展―』
日吉町郷土資料館、2005年３月
• 長州藩と幕府の戦争
『「幕末維新」動乱の長州と人物群像』（別冊歴史読本 15）、2005年７月
• 攘夷戦争から討幕戦争へ　同上
• 文久・元治年間の政局と龍馬
京都国立博物館 編『龍馬の翔けた時代―その生涯と激動の幕末―特別展覧会―』
京都新聞社、2005年７月
• 龍馬は「暗殺」されたのか　NHK 学園機関紙『れきし』92、2005年12月
• 慶応期の政局と龍馬・慎太郎
高知県立歴史民俗資料館、高知県立坂本龍馬記念館、北川村立中岡慎太郎館 編
『坂本龍馬・中岡慎太郎展―暗殺一四〇年！―時代が求めた“命”か？―
特別展三館合同企画』高知県立歴史民俗資料館、2007年７月
• 一橋党と南紀党に分立した継嗣擁立合戦の顚末
『篤姫と大奥―幕末騒擾を生き抜いた御台所―』（歴史群像シリーズ 特別編集）、
学習研究社、2007年12月
• 天璋院が出した嘆願書は西郷隆盛の心に響いたか　同上
• 薩長同盟と龍馬の役割
『坂本龍馬歴史大事典』（別冊歴史読本 27）、新人物往来社、2008年11月
• 日本の近現代 明治維新と文明開化
藤井譲治、伊藤之雄 編著『日本の歴史 近世・近現代編』
ミネルヴァ書房、2010年５月（高木博志と共著）
• 佛教大学と歴史学
佛教大学宗教教育センター 編『佛教大学の理念と歴史』
佛教大学宗教教育センター、2010年９月
• 世界が注目した内戦の行方―国際社会と戊辰戦争―　『歴史読本』857、2010年11月
• 総論．幕末政治と社会変動
明治維新史学会 編『幕末政治と社会変動』（講座明治維新 ２）、有志舎、2011年５月
• 慶応三年一二月九日の政変　同上
• 近世から近代へ―何がどうかわるのか―
佛教大学歴史学部 編『歴史を学ぶ歴史に学ぶ―歴史学部への招待―』
佛教大学、2011年５月
• 時代を動かした「志士」たちの明と暗　『歴史読本』864、2011年６月

- 明治国家の土台づくり（１～３）
『大日本帝国の興亡』１（建国と建軍）（歴史群像シリーズ）、
学研パブリッシング、2011年８月
- 本書の叙述と内容　足立荒人『松菊餘影』マツノ書店、2012年３月
- 見えない天皇から見える天皇へ―東京遷都・巡幸・肖像写真―
『歴史読本』882、2012年12月
- 横井小楠と大村益次郎の暗殺　『歴史人』2013年４月号、2013年４月
- 新発田藩京都留守居寺田家と旧蔵文書
『歴史学部論集』４、2014年３月（淺井良亮と共著）
- 「竜馬」を史料学の視点から見てみよう　『歴史地理教育』820、2014年６月
- 佐幕か、倒幕か。幕末各藩の動向　『歴史読本』903、2014年９月
- 幕末朋党の指導者たち　『歴史人』2015年２月号、2015年２月
- 功山寺挙兵と高杉晋作　『歴史読本』909、2015年３月
- 通商条約の勅許と天皇　『歴史学部論集』５、2015年３月
- 歴史随想 密勅三題　『茨城県史研究』99、2015年３月
- 間部詮勝の上京と「叡慮氷解」
福井県鯖江市教育委員会文化課 編『間部詮勝と幕末維新の軌跡』
福井県鯖江市教育委員会文化課、2015年３月
- 将軍継嗣問題から戊午の密勅へ
福井県鯖江市教育委員会文化課 編『安政の大獄の真実―幕末史における再評価―』
福井県鯖江市教育委員会文化課、2016年３月
- パネルディスカッション（パネラー）　同上
- 龍馬と薩長盟約　佛教大学歴史学部 編『歴史学への招待』世界思想社、2016年５月
- 大政奉還後の政治状況と諸藩の動向　『歴史学部論集』７、2017年３月
- 内山一幸報告への批判（2016年度日本史研究会大会報告批判）
『日本史研究』656、2017年４月
- 幕末維新史を再考する　『歴史地理教育』882、2018年７月
- 「攘夷」とは何か―長州毛利家が意図したこと、実現したこと―
上田純子、僧月性顕彰会 編『幕末維新のリアル―変革の時代を読み解く７章―』
吉川弘文館、2018年８月
- 王政復古前後の政局と公議―新発田藩を事例に―　『歴史学部論集』10、2020年３月
- 歴史手帖「新発田藩管内」の標木　『日本歴史』869、2020年10月
- 金禄公債証書の交付と士族　『歴史学部論集』11、2021年３月

【書評・新刊紹介】

- 近代日本研究会編『幕末・維新の日本』　『歴史』59、1982年10月
- 書評『茨城県史料＝幕末編Ⅱ』　『茨城県史研究』63、1989年11月
- 歴史学研究会編『オーラル・ヒストリーと体験史―本多勝一の仕事をめぐって』『事実の検証とオーラル・ヒストリー―澤地久枝の仕事をめぐって』
  『日本史研究』335、1990年７月
- 藤田覚著『天保の改革』　『歴史』75、1990年９月
- 杉本勲・酒井泰治・向井晃編著『幕末軍事技術の軌跡：佐賀藩史料『松乃落葉』
  『日本史研究』341、1991年１月
- 西田孝司著『雄略天皇陵と近世史料』　『日本史研究』351、1991年11月
- 野田秋生著『大分県政党史の研究―自由民権と党派の軌跡―』
  『日本史研究』360、1992年８月
- 江口圭一・芝原拓自編『日中戦争従軍日記――輜重兵の戦場体験―』
  『日本史研究』361、1992年９月
- 鳥取県立博物館編『贈従一位池田慶徳公御伝記』　『日本史研究』378、1994年２月
- 井上勝生著『幕末維新政治史の研究』　『歴史学研究』682、1996年３月
- 家近良樹著『幕末政治と倒幕運動』　『日本史研究』421、1997年９月
- 田中正弘著『幕末維新期の社会変革と群像』　『日本歴史』731、2009年４月

【凡例】

- 書誌は、次の形で示した。なお、雑誌については著者・出版社を省き、巻号を『　』外に記した。
  著者『タイトル・巻号』（シリーズ名）、出版社、出版年月
- 副題は、前後に「―」を付し、本題の後に記すことで統一した。
- 共著の場合は、出版年月の後に「（　　と共著）」と記した。
- 単著・論文は、それぞれタイトルを左寄せに、書誌を右寄せに配置した。
- ２本の論文が同一本に所収される場合は、１本目に書誌を載せ、２本目の書誌は「同上」と記した。